

1 学校、地域の特色

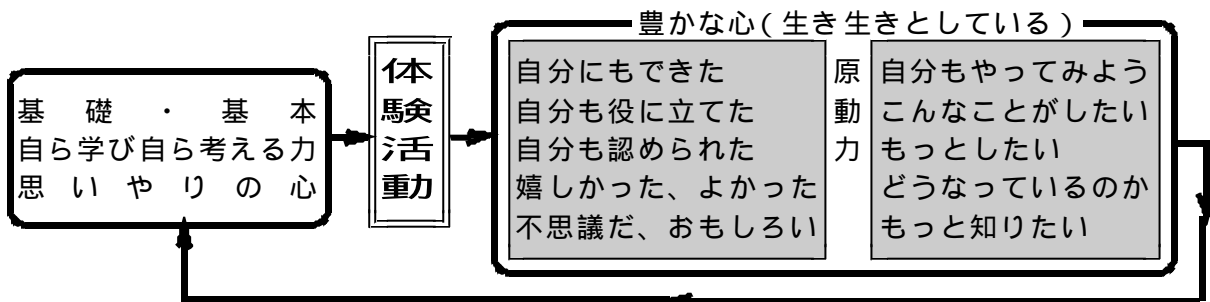
- (1) 自然と伝統ある文化の町に中核工業団地を中心にテクノポリス構想が順調に実現してきている。伝統文化や産業をはじめ、町全体が活性化を目指している。
- (2) 教育に対しては熱心な地域であり、学校行事に対する地域の支援も大きく、八尾町の幼・保・小・中・高による八尾学園推進協議会を設置し、一貫した教育を目指している。

2 研究主題

体験活動を通した豊かな心の育成を目指して

3 研究主題設定の趣旨

本年度から実施された新学習指導要領では「豊かな心」の育成が大きな柱の一つとなっている。また、「自ら学び、自ら考える力」の育成と「基礎・基本」の定着が強く求められ、「自ら学び、自ら考える力」の育成を目指して、総合的な学習の時間が新たに導入された。「豊かな心」を育むには、「自ら学び自ら考える力」「生活面と学習面での基礎・基本」「思いやりの心」等を身に付けることが大切である。下の図のように、この3つのことをベースとして体験活動を行うことで、子供たちに、「自分にもできた、役に立った、嬉しかった、不思議だ」という感情が芽生え、それを原動力として、「もっとやってみよう、こんなことがしたい、もっと知りたい」等の思いが育つと考える。このことがさらに子供たちに基礎・基本の定着、自ら学び自ら考える力、そして思いやりの心の育成につながる。このように、これらが個々にあるのではなく、互いに影響しあって伸びていくものであると考えている。



体験活動を通して得た喜びが大きいほど、次の活動や行動が自主的、意欲的になる。このように、従来のような机上の学習だけでなく、実験・実習等の体験活動、自ら課題を設定し、自ら解決するといった体験活動、さらに問題解決的な学習をすることで子供たちの心の育成が望めることから体験活動が一層必要となる。

以上のことから、総合的な学習の時間に体験活動を積極的に取り入れた。

4 総合的な学習の時間の運用にあたっての基本方針

- (1) 行事の精選と系統化、体験活動の重視を目指し、総合的な学習の時間の充実を図る。
- (2) 3年間の活動が満足感、成就感、存在感を感じられるよう内容を工夫する。
- (3) テーマを3年間の見通しと系統性のあるものにし、活動のねらいの明確化を図る。
- (4) 総合的な学習の時間のねらいを次のようにする。

自ら課題を見つけ、主体的に問題を解決し、自らの意思を表現する資質や能力を育てる。 (判断力、思考力、表現力の育成)

学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育てる。 (学び方の習得)

様々な体験を通して、自己理解を深め、自己実現に向けて努力する態度を育成する。 (自己実現に向けた態度の育成)

(5) テーマについて

学校テーマ：「生きる」

学 年	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
時 数	全学年、年間 70 時間		
学年テーマ	「私たちの環境は ...」	「人と共に ...」	「将来に向けて ...」
個人テーマ 学習内容	・地域の自然、文化、 伝統 ・環境問題	・生きがい ・人 ・働く ・助け合い	・これからの生活 ・平和、福祉、ボランティア
関連活動	・小学校の学習の関連 ・宿泊学習・環境デー ・関連教科	・社会体験活動 ・宿泊学習・進路指導 ・関連教科	・修学旅行・進路指導 ・福祉体験活動 ・関連教科

(6) 留意事項

体験活動は目標達成のための手段であり、体験活動が目標にならないようにする。
また「体験あって学習なし」にならないようにする。

事前・事後指導を工夫する。

ア 道徳や特別活動、教科との関連性を明確にし、事前指導に組み入れる。

イ 学年だけでなく、学校全体で計画・立案を行う。

ウ ワークシート等を活用しながら活動の趣旨やねらいを明確にする。

エ 保護者へ啓発したり、関連機関との連携を密にしたりする。

5 実際の活動

(1) 2 学年社会体験活動について

実施期日と時間 平成14年 9月30日(月)～10月4日(金) 9:00～16:00 (30時間程度)

体験活動場所

八尾町内の各事業所及び商店、農家、公共施設、福祉施設等

実施内容・方法

ア 生徒の興味・関心をもとに、地域や学校の実態に応じて、活動内容を決定する。

イ 班(1班2～4人程度)単位で実施する。

ウ 活動期間中は、自宅からそれぞれの活動場所へ通うことを原則とする。

事故に備えて

学校として保険に団体加入する。

経費の内訳

保険、指導ボランティア謝金、生徒の腕章、幟旗、記録代等

(2) 3 学年の福祉体験活動について

実施期日と時間 平成14年10月8日(火)～11日(金) 9:00～16:00(生徒一人あたり12時間程度)

体験活動場所

八尾町内、婦中町、山田村内の各福祉施設

実施内容・方法

ア 生徒の興味・関心をもとに、活動先を決定する。

イ 活動期間中は、自宅からそれぞれの活動場所へ通うことを原則とする。

事故に備えて

学校として保険に団体加入する。

経費の内訳

指導ボランティアの保険料、記録代、名札等

(3) 文化祭でのスペシャル講座について

「日頃の学習成果の発表」「地域との連携」、「開かれた学校づくり」をねらいとして生徒会が中心となって文化祭を実施している。その中でも、スペシャル講座は生徒は積極的に活動する一つである。これは、16講座の中から希望する講座を選択し、3時間程度話を聞いたり、実際に体験したりする時間である。

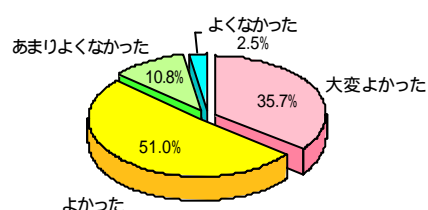
講座は身近な料理、科学、デザイン、陶芸、工芸に関するもの、国際理解、生き方に関するもので、八尾在住の人を中心に町外の人にも外部講師として依頼している。

6 成果と次年度の取り組みについて

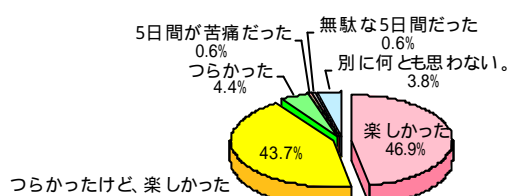
【2学年社会体験活動について】

< 生徒の反応 >

(1) 将来の生き方の参考になったか



(2) 全体を通した感想はどうだったか

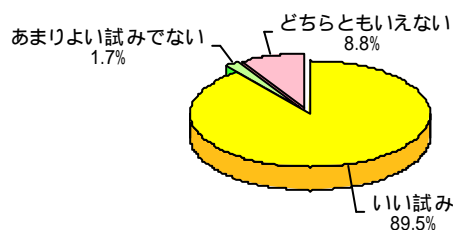


(3) 活動を通して、新たに分かったこと、感じたこと、学んだことは何か。

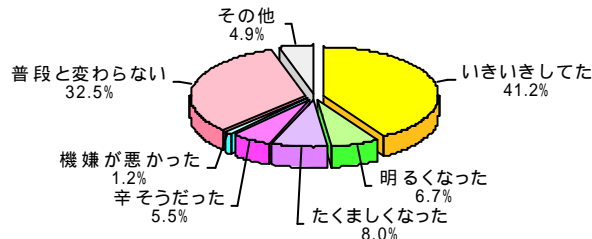
- ・挨拶や返事、言葉遣いの大切さが分かった。
- ・自分がんばれる方だ、がんばればどんなこともできると分かった。
- ・優しく接して下さったことが嬉しかった。(多くの生徒が感じた)
- ・挨拶や(ありがとうなど)声をかけてくださる方がおられたことが嬉しかった。
- ・仕事は、楽しいことも辛いこともあるから、やりがいを感じられるんだと思う。

< 保護者の反応 >

(1) この活動をどう思うか



(2) 活動中の子どもの様子はどうだったか



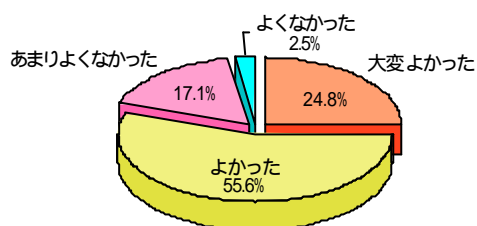
(3) この事業についての感想は何か。

1週間で身に付けられるのは知識や技術でなく、心の面だと思う。接する方への礼儀や思いやる心、つらい仕事でも責任をもってやり遂げる根気強さの必要性等を感じとり、これから生活していく上で考える機会となることを期待します。

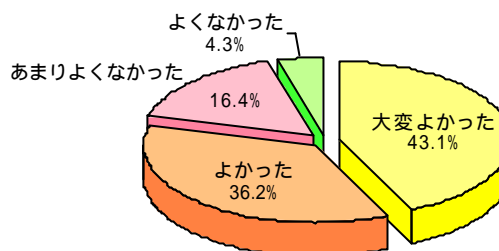
【3学年の福祉体験活動について】

< 生徒の反応 >

(1) 進んで取り組めたか



(2) 2日間充実したか



(3) 活動を通して感じたことは何ですか。

初めは、まったく何をすればよいかわからなくてとまどっていたけど、いつもやさしく接して下さってうれしかった。お年寄りの方も「よく来てくれた」と言ってくださったり、とてもうれしかった。時間がたつにつれて、何をすればよいかだいたい分かってきました。私が一番うれしかったのは、喜寿苑の従業員のみなさんが優しく、楽しく、お年寄りの方も優しくしてくれて、いつも感謝してくれていたことです。また、機会があったら行ってみたい。

(この活動を通して) お年寄りの人と私たちは同じ人間だなーと思い始めた。笑顔を見るとがんばるぞという気持ちになれた。

【文化祭スペシャル講座について】

<生徒の感想から>

- ・ 日本はとても恵まれた国だと思った。ベトナムは私と同じ年の子ども満足に学校に行けず、家もなく食べられない子がいます。今日の講座を生かしてものを大切にしたり、ご飯を残さないようにしたり、募金をしたりしたいです。(国際理解と交流講座、1年女子)
- ・ 液体窒素はごく短い時間なら触れても凍らない等新しいことを知れた上に、実際体験することもできたので嬉しかった。科学のおもしろいところ、不思議なところが分かった。学校の授業ももっと実験が多ければなあと思った。(おもしろ科学実験、3年男子)

【成果】

- (1) 人や物に直接ふれる活動は既習事項の有機的な働きを促進すると同時に、問題意識のめばえと学習の進め方の習得等に大きな効果がある。また、人の生きざまに直接ふれることは生徒の将来に大きな影響を及ぼす。したがって、体験活動のねらいを明確にし、ねらい達成のための活動を意図的・計画的・継続的に取り入れる必要がある。
- (2) 社会との関わりに関すること、礼儀・郷土愛・理想の実現・勤労奉仕の精神・思いやり・感謝・社会的責任・公德心等について考えたり、気付いたりする機会となる。
- (3) 「自己理解や自己の可能性」「将来の生き方」について考える機会となる。
- (4) 「地域の子どもは地域で...」「子どもの教育は社会全体で...」というコンセンサスが次第に得られ、開かれた学校の促進、地域の教育力の向上が期待できる。

【次年度への取り組み】

体験活動は教育活動全般にわたり導入することが必要である。その際、次のことをポイントとして、新年度も教科の時間と総合的な学習の時間を中心に実施したい。

- (1) 体験活動のねらいの明確化と指導内容の厳選、系統化を行う。
- (2) 事前に活動の趣旨や取り組みの心構えと事後に活動後の反省等を明確にする。
- (3) 学校と家庭、地域、関連機関との連携を図る。(広報活動の活性化や体制づくり)